

令和7年度北九州市社会福祉審議会 地域支援専門分科会 会議録

1 開催日時：令和8年3月26日（木） 10：00～

2 開催場所：北九州市役所15階 15C会議室

3 出席者等

(1) 委員（敬称略、五十音順）

■北九州市婦人会連絡協議会 事務局長 太田 康子

■社会福祉法人 北九州市社会福祉協議会 会長 小林 一彦

■一般社団法人 コミュニティシンクタンク北九州 代表理事 西村 健司

■公立大学法人 福岡県立大学 人間社会学部 教授 村山 浩一郎

■北九州市老人クラブ連合会 副会長 山本 ミチ子

■公益社団法人 北九州高齢者福祉事業協会 副会長 和田 恵子

(2) 行政関係者（課長以上）

地域共生社会推進部長、地域福祉推進課長

4 議題

(1) 議題1 副専門分科会長の選任について

(2) 議事2 地域福祉計画の策定について

(3) 議事3 地域コミュニティビジョンについて

(4) 議事4 重層的支援体制整備事業実施計画（案）について

5 議事要旨

(1) 議題1 副専門分科会長の選任について

前副専門分科会長の退任にともない、新たに副専門分科会長を本会議出席委員により互選した。

(2) 議題2 地域福祉計画の策定について

【主な意見・質疑応答】

〈委員〉

地域の活動は人口が減って担い手不足の問題があって、地域の活動が徐々に衰退していっ

ているが、活発になってきている活動もある。

〈委員〉

新しい活動がうまれている、もう変えていかなければならないと団体としても考える必要がある。情報を仕入れてどう変わらなければならぬか受け止めなければならぬ。団体としても次の世代へのバトンタッチに課題を感じている。

〈委員〉

インドネシアからの実習生の方が自治会に入ってくれて、掃除を熱心にしてくれてすごい感謝をしていたが、逆に食べ物をくれたりいろいろ教えてくれたり助かっていると言われたというような、地域での良い事例もある。

〈委員〉

新しい活動が出てきていると思うが、同じような悩みを抱えている地域がたくさんある中で、どうPRしていくかということも大事じゃないかと思う。たとえば一つずつの校区でやっている好事例を、他の校区にどう伝播していくのか今後必要になるのではないかと感じた。

〈委員〉

地域ごとの事情があったり組織が違ってたりなかなか難しいとは思いますが、いろんなアイデア取組みを共有する場があってもいいのではないかと。また成功事例だけでなく失敗事例を知ること大事だと思う。

〈委員〉

ふれあいネットワーク活動について福祉協力員の数は減っているのに、助け合い活動が伸びているというのはなぜか。ほかの仕組みなどで補完しているのか等注目してみたいと思う。

(3) 議事3 地域コミュニティビジョンについて

【主な意見・質疑応答】

〈委員〉

地域づくりを地域（の人や団体）だけでやっても限界がある。地域の負担感を分散するために、NPOや企業などがどうかかわるかの視点が大事。

〈委員〉

市民センターでカフェを開いているいろんな人が自由に意見を言い合える場にして、学生なども入れて地域のことを考える、みんなで実行できることをやっていくなど、センターを中心にやってほしい。今はクラブ活動がメインのように感じるが、もっといろんなことに開放してセンターを活用しないと駄目。センターを中心に人を集める、いろんな団

体を呼び込むのが良いのではないか。

〈委員〉

地域のルールというのが既存の方々が作ったルールがあるので、今の若い人が地域に入るとマッチしない。若い人がルールを作り、今の役員さんたちがチェック、交流しながらルールを作っていくのが良いのではないか。

〈委員〉

まちづくり協議会に、市の講座の受講生など地域づくりにやる気のある人が入れる枠を作ってほしい。地域で活躍の場がない。

〈委員〉

地域づくりに熱意のある方の地域で活躍の場が現状ない。活躍できるような場をどう整備するかということがポイントになる。

〈地域福祉推進課長〉

地域福祉計画の課題と同じと感じており、コミュニティビジョンをどこまで反映できるのか懇話会で議論させていただきたい。

〈委員〉

ICTをどうやって地域活動にうまく使っていくかということを研究してもよい。

〈委員〉

最近こどもの自殺が多いと聞く。自殺対策も地域福祉に取り入れるのかなと思う。

〈委員〉

いのちの電話など教育委員会の主導でいろいろ対策をやっている。低年齢層に対する自殺対策を多団体でやるという事例になってくると思う。

〈委員〉

地域型循環システムと資料にある。昔流行った地域通貨、地域だけで流通する通貨を作って地域で循環させる。デジタルも普及しているので違った形でやれるのではないか。そういうのも検討してみても良いのではないか。

(4) 議事4 重層的支援体制整備事業実施計画(案)について

【主な意見・質疑応答】

〈委員〉

地域福祉計画は大きく二つのテーマがあって、一つは地域での住民同士の支え合いつながり助け合いといったことを、どうやって作っていくのかということで、もう一つは支援に繋がっていない人をどうやって繋げていくのかとか、制度にうまくはまらない人をどう支援していくのか等、そういった支援の仕組みを住民だけでなく各分野の専門機関がどう連携するののかという分野横断的な仕組みをどう作っていくのかということである。国が準備した重層的支援体制整備事業を活用して、いのちネットをどうバージョンアップさせるのかという、その時に社協とかNPOも含めて、いのちネットを軸とした新しい仕組みを構築していこうと進めていると捉えている。

〈委員〉

支援を必要とする人がいのちネットに繋がってからの仕組みはできていると思うが、繋ぐまでのところをどう作っていくのかということが現時点では見えにくいと感じる。

〈地域福祉推進課長〉

民生委員や、ふれあいネットワークの調整会議などの場で、地域課題とか支援が必要と思われ方の情報共有を図る仕組みがある。支援に繋がっていない人もおり、地域との連携というところは課題と認識している。

〈地域共生社会推進部長〉

窓口が知られておらず、住民はいざ困ったときに本気で調べて初めて分かる。窓口を広く知っていただく工夫がいていると感じている。

〈委員〉

地域で活動していて高齢の方などだれがどこに住んでいるか等の情報は大事。そうしたことから、市民センターがだれもが来れるような場になってほしい。

〈委員〉

まだ繋がっていない人をどうやって繋げるのかという問題が残っている。広い意味で参加支援はそういったことなのかなと思う。参加支援を重層の中だけでなく、広く地域福祉でやっていけないといけないのかなと思う。

6 その他連絡事項

令和8年度は地域福祉計画を策定するため、本分科会は複数回開催する予定なので協力をお願いします。

7 問い合わせ先

保健福祉局地域福祉推進課

電話番号 093-582-2060